

平成 23 年度 動物愛護週間中央行事実施結果

1 動物愛護週間中央行事への参加

動物愛護週間は、広く国民の間に、命ある動物の愛護と適正な飼養について理解と関心を深めるために設けられているもので、国及び地方公共団体はその趣旨にふさわしい行事が実施されるように努めなければならないことが「動物の愛護及び管理に関する法律」の第4条に定められている。

本年についても、本会が実施する獣医事対策等普及啓発活動事業の一環として、東京都内で開催された「動物愛護週間中央行事」に、国及び東京都、台東区並びに動物愛護団体等で構成する中央行事実行委員会に主催者構成団体として参画した。

2 平成 23 年度 動物愛護週間中央行事の実施結果

平成 23 年度 動物愛護週間中央行事は、屋外行事：9月17日(土) 東京・上野恩賜公園内(不忍池蓮池周辺、野外ステージ、上野動物園)、屋内行事：23日(金・祝) 東京国立博物館 平成館講堂で開催された。

【スローガン】いのち輝け人と動物の愛の輪で

【キーワード】備えよう！いつも一緒にいたいから

(1) 9月17日(土) 11:00～16:00 屋外行事

野外ステージでは、動物愛護セレモニーを始め、愛犬しつけ方教室、聴導犬実演、どうぶつ紙芝居上演が、そして、ブース・広場では、子供コーナーをはじめとした各種催しが、さらに、上野動物園協力の入場優待券による動物園の無料入園、映画上映などが行われた。

(参加者：8,000名、上野警察署及び主催者集計)

本会は、実行委員会構成団体として、『インフォメーションブース』における場内アナウンスや、今回特別に設置された『東日本大震災動物救護活動パネル展示コーナー』を担当したほか、子供広場での『動物お絵かきコーナー』、及びブースでの『マイクロチップによる個体識別措置事業の展示』を実施した。

(2) 9月23日(金・祝) 13:00～16:30 屋内行事

屋内行事は、東京国立博物館 平成館講堂にて、以下の2部構成で実施された。

先ず、環境省並びに動物愛護4団体による各表彰式が行われた。本会は、「第23回 日本動物児童文学賞表彰式」を実施した。

続いて、動物愛護シンポジウムを“備えよう！いつも一緒にいたいから ～人と動物の防災を考える～”を



動物愛護セレモニーでの開会宣言



東日本大震災動物救護活動パネル展示コーナー



動物お絵かきコーナー



マイクロチップによる個体識別措置事業の展示

図1 平成 23 年度 動物愛護週間中央行事(屋外行事)の様子



図2 本会の矢ヶ崎専務理事から加藤英津子さんに日本動物児童文学大賞の賞状が授与される

テーマとして、本年3月に発災した「東日本大震災」等における動物救護活動の報告及び講演が行われ、愛護団体（緊急災害時動物救援本部）、行政、動物園・水族館それぞれの立場における災害時の動物救護活動が報告された。（参加者：318名、参加者名簿による）

第23回日本動物児童文学賞表彰式

本年度大賞受賞者である加藤英津子さんには、渡邊綱男 環境省自然環境局長から環境大臣賞、矢ヶ崎忠夫 本会専務理事から日本動物児童文学大賞、宮道圭介 株式会社損害保険ジャパン営業開発第二部第二課長から副賞が授与された。また、優秀賞受賞者である彩波さだこさんと石川純子さんには、矢ヶ崎忠夫 本会専務理事から日本動物児童文学優秀賞と、磯部大樹 アニコム損害

保険株式会社経営企画部課長、宮道圭介 株式会社損害保険ジャパン営業開発第二部第二課長から、それぞれ副賞が授与された。

【日本動物児童文学大賞】

「雨上がりの晴れた空」 加藤英津子（愛知県）

【日本動物児童文学優秀賞】

「サザナミのゆめ」 彩波さだこ（東京都）

「二匹のムサシ」 石川 純子（兵庫県）

動物愛護シンポジウム

「備えよう！いつも一緒にいたいから
～人と動物の防災を考える～」

【報告】

「東日本大震災における動物救護活動報告」

平井 潤子 氏（公社日本愛玩動物協会理事）

山口千津子 氏（公社日本動物福祉協会獣医師調査員）

【講演1】

「災害時における行政の役割」

川上直也 氏（新潟県新発田食肉衛生検査センター所長）

【講演2】

「(社)日本動物園水族館協会における東日本大震災被災園館への対応」

荒井一利 氏（譜日本動物園水族館協会副会長・
鴨川シーワールド館長）